

リュウノヒゲモ

Potamogeton pectinatus L.

ヒルムシロ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

従来も少ない種類であったが、急減している。(現況:R-)

形態

茎はきわめて細く、よく分枝する。葉は狭線状で長さ5~10cm、幅0.5mmで全縁。センニンモと同様に托葉は葉と合着して葉鞘となり茎を抱く。合着した托葉の上部は耳状突起となる。センニンモは葉の幅が2~3mmで、葉縁に鋸歯があるが、本種にはない。また、カワツルモ属と紛らわしいが、鋸歯がないことで区別できる。総花托の長さ4~10cm、穂状花序の長さ2~4cmでまばらに花を着ける。各花には葯隔付属突起4、心皮4がある。

国内分布

北海道、本州、四国、九州、に分布。世界の温帯、熱帯に広く分布。

県内分布

従来は舩倉島と能登から報告されていたが、近年の調査では南加賀区でいくつかの産地がわかった。今回の調査では、舩倉島のみからの報告がある。

生態など

沈水性多年草。開花期は7~9月。花序は水面に横たわり水面を移動した花粉が柱頭にたどりついて、受粉する(水面媒)。夏ごろより地下茎の先端に長さ4~8mmの塊茎ができ、栄養繁殖と越冬をおこなう。

生育環境

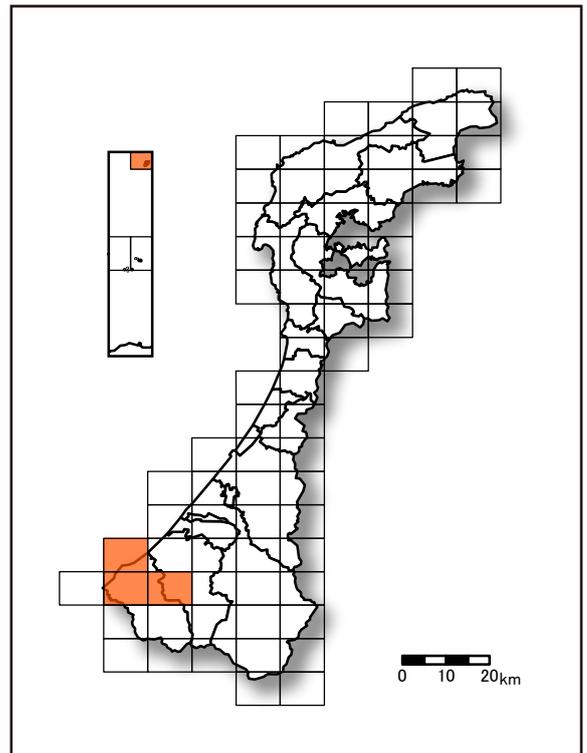
池沼、河川。淡水域と汽水域に生育。

危険要因

池沼開発、土地造成、道路工事など。



小野ふみゑ・2007年6月3日・輪島市



県内の分布